



クーリングシェルターをご利用ください

環境省では、これまで、熱中症の危険性に対する警戒を促すために「熱中症警戒アラート」を発表してきました。令和6年4月からは、過去に例のない危険な暑さが予測され、人の健康に重大な被害が生じる恐れがある場合に備え、熱中症警戒アラートをもう一段引き上げた「**熱中症特別警戒アラート**」が新たに創設されました。

「熱中症特別警戒アラート」が発表された場合には、危険な暑さから避難するため、公共施設の一部(右図参照)をクーリングシェルター(指定暑熱避難施設)として開放しています。また、「熱中症特別警戒アラート」の発表がない場合でも、「涼みどころ」として、ぜひご利用ください。

クーリングシェルターを利用する際の注意事項

▽クーリングシェルターの開放は、10月23日(水)まで(熱中症特別警戒アラートの運用期間)のうち、各施設が開館している日となります。▽施設内の温度は、個別に調整することはできません。▽利用にあたっては、各施設の指示に従ってください。

クーリングシェルターを運用する民間施設を募集します！

住民の命と健康を守り、重大な健康被害を防止するため、クーリングシェルターを開設していただける民間施設を募集します。詳細は、村公式ホームページをご覧ください。



▲HPはこちら

【問い合わせ】環境政策課環境計画・緑化推進担当(☎282-1711 内線1454)



村では平成26年度から、「地域社会と原子力」をテーマに、社会科学の視点でこれからのまちづくりを考える契機となるよう、若手研究者への支援事業を続けてきました。事業開始から10年目を迎えるにあたり、これまで支援した研究者からの報告や東海村へのメッセージを、リレーエッセーの形式でお伝えします。

【地域社会と原子力に関する社会科学研究支援事業】リレーエッセー

若手研究者からのメッセージ

東海村発の技術を本当に 人びとのために役立てるには？

東京電機大学 寿楽 浩太

平成28(2016)年度の『SPEEDI』とは何か、それは原子力防災にどのように活かせるのか?」では、緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム(SPEEDI)についての研究を行いました。



SPEEDIは東海村にある旧日本原子力研究所(現日本原子力研究開発機構(JAEA))で1980年代から開発されました。原子力事故の緊急時に被害を

予測できる技術として注目されましたが、平成23(2011)年の東京電力福島第一原子力発電所事故では想定されていた活用がなされず、計算結果の「隠ぺい」という批判も招いて大きな論争となりました。

この研究では、SPEEDIにはその原理上、仮に計算性能・精度が向上しても「できない」と「できる」ことがあることが当時はきちんと考慮されていなかったことを明らかにしました。原子力規制委員会は「できない」ことに着目し、緊急時のSPEEDIの利用を止めました。一方、「できる」ことに着目する専門家からは、活用を求める声は今も出ています。

本当に大事なのは関係する地域の皆さまのために何が一番適切なのか、だと思います。この制度のご支援により、平成28(2016)年度の時点で論点を整理する研究を行えたことを誇りに思います。海外での研究発表で、「自治体の研究支援プログラム」に驚きの声と賛辞を受けたことも忘れられません。

報告書は平易を心がけました。皆さまに改めてご覧いただければ望外の喜びです。

報告書はこちら▶



【問い合わせ】産業政策課産業政策推進担当(☎282-1711 内線1269)